第３学年　総合的な学習の時間　学習指導案

令和元年１２月４日（水）　５校時

１　単元名　ふるさと大すき大作戦　パート２　～ふるさとの魅力を伝えよう～

２　単元目標

○　江津市のひと・もの・ことについて調べたり体験したりすることを通して、地域の魅力や地域の魅力を支えるための多くの人の工夫や努力があることに気づくことができる。（知識及び技能）

○　江津市のひと・もの・ことを知るための課題を設定し、調べたり体験したりすることを通して、情報を収集することができる。また、相手に応じて伝えたいことを明確にしながら情報をまとめ、パンフレットにまとめたり調べたことを地域や保護者の方に伝えたりすることができる。（思考力・判断力・表現力等）

○　江津市のひと・もの・ことについて自身の課題をもち、課題解決に向けて取り組むことができる。（主体的に取り組む態度）

３　図書館活用教育で身に付けたい力

情報収集（詳しく知るために質問をする）・情報の整理（調べたことを目的に応じて適切にまとめる）

４　基盤（児童観省略）

○　新学習指導要領には 第１目標「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目指す。」とある。本校では、この目標を達成するために期待する子どもの姿として「地域を愛し、夢をもって挑戦し続ける渡津っ子」と設定しており、第３学年として期待する子どもの姿は「江津のひと・もの・ことに興味や関心をもち、主体的・対話的に課題を解決することを通して、自己の考えや気持ちを表現できる子ども」を目指していきたい。

本単元は、江津市のひと・もの・ことについて調べたいことを、１学期の活動を生かして追究していく中で、地域の魅力を多くの人に伝えることを最終目標として取り組む。そのためには、対象となるひと・もの・ことについての魅力や多くの人々が様々な工夫や努力をしていることに気づき、そのことについてさらに詳しく調べたり体験したり、集めた情報を比較したり分類したりするなどして、児童が主体的・対話的で深い学びになるように、学習に取り組ませる。

児童は、これまでに町探検を経験し、地域について関心を持ち始めているところであるため、初めての総合的な学習の時間における探究課題として自然に取り組めるものであると考える。さらに、総合的な学習の時間における探究課題は、地域との関連性がとても高い。そのため、「地域」に関する興味や関心をもち、知識を身に着けておくことが、今後の探究課題を解決していく上で大変重要であると考える。以上のような視点から、本単元を設定した。

本単元で、多くの体験活動を通して、地域の伝統文化や特色のある場所、地域にゆかりのある人物などについて興味や関心をもたせ、情報収集や整理・分析をする活動を通して、それらを創り、育て、守る人々の存在や工夫や努力などに気付かせたい。その際、他教科との関連を大切に扱い、学習に生かしていきたい。また、地域の一員として、自身の課題をもち、課題解決に向けてできることをしていこうとする態度を育てたい。さらに、総合的な学習の時間の学習の進め方を習得させることを通して、総合的な学習の時間に限定することなく、自らが課題をもち主体となって課題を解決していこう

とする態度を養っていきたい。特に、児童の発言を大切することで児童が主体的となって進めたり、対話を通して内容をより良いものにしたりすることで、深い学びへとつなげ、総合的な学習の時間の目標に迫りたい。

○　本単元の指導にあたっては、単元の目標を達成するために、主体的・対話的で深い学びの姿を求めて、以下のような指導の工夫を考えた。

①図書館活用教育の充実

主に、情報収集、整理・分析、まとめの過程において、図書館での調べ学習を多く取り入れる。情報収集の際は、見学・体験・ゲストティーチャーとの関わりを持つ前に、本やインターネットなどで調べることによって、詳しく聞きたいことや、特に興味をもっていることなどを明確にしておく。さらに、見学・体験・ゲストティーチャーとの関わりを持った後、自分の調べた情報に体験活動を通して調べたことを追加したり比べたりして、整理・分析することで効果が得られると考える。また、本で調べたことは、情報カードに記入し活用する。

②見学・体験・ゲストティーチャーの充実

児童の自己決定のもと、調べることになった人・もの・ことについては、可能な限り、現地へ出かけたり、ゲストティーチャーを招き詳しい話を聞いたりすることで、児童の関心度を高めていきたいと考える。その際、調べる人・もの・ことについては、担当の児童が主体となって調べたり、事前のお願いの電話やFAX、挨拶やお礼などを行ったりして取り組む。

【これまでに調べた　ひと・もの・こと】

１学期・星高山・江の川（都治川）・江津本町・有福温泉・石見智翠館高校
・パレット江津（観光情報センター・子育てサポートセンター）・青木秀清・室崎勝造

２学期・石見焼き・石見神楽・江の川まつり・柿本人麻呂・よさみ姫・林耕雲・室崎準三

他の学習で行った場所・渡津の町探検・石田工務店・江津清和養護学校
・真和漁業生産組合・ゆめタウン江津

③個人・グループ・全体思考の場の設定

児童が主体的・対話的に取り組むためには、まず、個人思考の時間を確保すること必要であると考える。詳しく知りたいことについて下調べをしたり、調べたことをメモしたり、見学を振り返ったりまとめたりすることを児童一人ひとりが行うことで、自分なりの意見や思いが明確となる。その考えを一人ひとりが持つことで、グループや全体の場で対話が生まれ、深い学びにつながっていくと考える。

④グループでの話し合いルーブリック表の活用

国語科「グループで話し合おう」で学習したことをルーブリック表にまとめることで、話し合いの評価を明確に示した。総合的な学習の時間だけでなく、算数科や社会科でもその都度提示し活用する。

⑤相談員制度

児童の実態からも言えるように、児童が探究課題を解決していく過程の中で、困ってしまったり、

行き詰まってしまったり、現段階の能力では解決できない場面に直面したりすることは多くあると予想される。そのような場面で相談し、解決に導くための役割として、教師は組織の中の「相談員」という位置づけとする。「相談員制度」を利用するときは、①相談があることを伝える。「相談員さん、相談があります。」「困っています。」「お願いがあります。」など。②そのために自分なりにしてきたことや考えたことを詳しく伝えること。「私は、○○について△や□について調べてきました。○○をよりわかりやすく伝えるためには××が必要です。」「○○するために、△まではできました。次の□をするためには、どんな方法があるか一緒に考えてください。」など。

児童の中には、普段の学習の様子から、自力解決が難しい時に意思表示をすることが苦手な児童が存在しているため、制度として使って良いことや、話型をある程度示しておくことで、抵抗感をなくし気軽に利用できると考える。

制度を利用した児童に対して、教師は児童の実態をしっかりと把握し、実態によっては、解決策を教えるのではなく、解決につながる手段を伝えたり、他の児童と関わらせたりすることで、児童がより主体的に解決していくことができるように支援していきたい。

⑥教科横断的な学習

児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、教科横断的な学習活動を行う。本時では、国語科「グループで話し合おう」で学習したことをもとに、グループ内で司会者を立てることで、役割や話し合いの進行を明確にして話し合いを進める。

5　単元計画

		めあて・主な学習活動	☆評価規準（観点）【方法】	学校図書館活用教育
課題設定	①	詳しく調べたいことについて考えよう。 ○１学期の探究課題について振り返り、これからの探究課題を決める。	☆１学期の探究課題や地域の現状に関する資料をもとに、新たな課題を設定することができる。 【発言・話し合い活動・振り返り】	★課題設定力 ・人口減少に関する資料 ・わたしたちの江津 ・インターネット
	②	詳しく調べたいことを決めよう。 ○自分が特に調べたいことをそれぞれ選択する。（江の川まつり・石見神楽・石見焼き・江津ゆかりの人物） ○グループで具体的に調べたいことについて話し合ったり、役割を決めたりする。		
情報収集	③〜⑬	詳しく調べよう。 ○図書館活用・インターネット・見学・ゲストティーチャー等の手段を用いて詳しく調べる。 ○郷田小学校の３年生と交流しよう。（調べたことの情報共有）	☆必要な情報を集めることができる。 【発言・資料の読み取り・情報カード・ノート・インタビュー・見学メモ・振り返りシート】	★情報収集力 ・資料の取集 ・インタビュー ・インターネット ・見学 ・ゲストティーチャー
整理・分析	⑭⑮	調べたことを整理し振り返ろう。（グループ） ○調べたことを整理・分析し、人々の努力や工夫について考える。 ○図式表にまとめる。	☆目的に合わせて情報を整理することができる。 【図式表・話し合い活動】	★情報整理・分析力 ・資料の選択 ・図式表 ・情報の取捨選択

まとめ・表現	⑮	調べたことや気づいたことを伝えよう。（グループ） ○調べたことを学級のみんなに伝え合い交流する。	☆調べたことを相手にわかりやすく伝えることができる。 【発言・図式表・質問・感想・振り返り】	★まとめ・表現力 ・ルーブリック ・図式表 ・発表
課題設定	⑯	どんなパンフレットを作るか考えよう。 ○誰に向けて、どんな内容のパンフレットを作りたいか考える。 ○記事の担当を決める。	☆パンフレットの大まかな形式や内容について、学習したことを生かして決めることができる。【発言・話し合い活動・振り返り】	★課題設定力 ・パンフレット ・インターネット ・話し合い
情報収集・整理・分析	⑰ ⑱ ⑲本時 ⑳	江津の魅力を伝えるパンフレット作ろう。 ○必要な情報を集めたり整理したりしながら、記事を書く。 ○よりよいパンフレットを作るために改善点を見つけ自分ができることを考える。 ○パンフレットを完成させる。	☆必要な情報を集めたり、整理したり分析したりして、パンフレットを作ることができる。【発言・資料の読み取り・情報カード・ノート・インタビュー・見学メモ・図式表・話し合い活動振り返りシート】	★情報収集力 ★情報整理・分析力 ・パンフレットの分析 ・資料の選択 ・情報の取捨選択
まとめ・表現	㉑	作ったパンフレットを渡して、江津の魅力を伝えよう。 ○作ったパンフレットを配る。 （さまざまな方法が考えられる。）	☆作ったパンフレットを渡して、地域の魅力や自分たちの思いや願いを伝えることができる。 【発言・感想・振り返り】	★まとめ・表現力 ・ルーブリック ・手紙
	㉒	作戦を振り返ろう。 これまでの活動を振り返り、達成できたことやこれから探究してみたいこと、活かしていきたいことなどについて友達と共有する。	☆作戦全体を通して自己を振り返り、これからの活動に生かせることを考え、伝えることができる。 【発言・感想・振り返り】	★発表
課題設定	㉓	発表会で伝えたい内容を考えよう。 ○渡津の保護者や地域の方に江津の魅力を伝えるための発表会の内容を考える。	☆渡津の地域や保護者の方に江津の魅力を伝えるための発表会の内容を決めることができる。【発言・話し合い活動・振り返り】	★課題設定力 ・話し合い
情報収集・整理・分析	㉔ ～ ㉘	どのような表現をして伝えるか考えよう。 ○発表会で伝える方法について、セリフや見せ方等の表現の仕方を考える。	☆渡津の地域や保護者の方に江津の魅力を伝えるための発表会の内容を決めることができる。【発言・話し合い活動・振り返り】	★情報整理・分析力 ★表現力
まとめ・表現	㉙	発表会で伝えよう。 ○発表会を通して、渡津の保護者や地域の方に江津の魅力を伝える。	☆発表会を通して、渡津の保護者や地域の方に江津の魅力を伝えることができる。	★発表・表現力

	㉚	作戦を振り返ろう。 これまでの活動を振り返り、達成できたことやこれから探究してみたいこと、活かしていきたいことなどについて友達と共有する。	☆作戦全体を通して自己を振り返り、これからの生き方に生かせることを考え、伝えることができる。 【発言・感想・振り返り】	★発表

6　本時の目標

（1）目標

○　よりよいパンフレットを作るために、話し合いを通して改善点を見つけ、自分ができることを具体的に考えることができる。

（思考力・判断力・表現力）

（2）展開

	学習活動・予想される児童の反応	・教師の支援　☆評価規準
0 分	1．前回までの活動を思い出し、本時の活動を確かめる。 ・担当する記事を書いた。 ・記事を仲間分けして、本タイプにすることが決まった。 ・誤字脱字がないか確認した。 よりよいパンフレットを作るために自分ができることを考えよう。	・事前に本時の話し合いについて予告しておき、自分の考えを持たせておく。 ・「よりよい」とはどんなことか確かめる。
5 分	2．５つのグループに分かれて話し合う。 ・ページ全体についてまとめた言葉をつけるといい。 ・ここの順番は入れ替えたほうがわかりやすいよ。 ・ここに、〇〇に関係する絵を入れると楽しそうだと伝わる。 ・目立たせたい字は、太く書いた方がいい。 ・背景の色をつけるといい。 ・「名人さんの声」と写真を付け足すと魅力が伝わる。	・参考になるパンフレットの提示 ・グループの構成 ・国語科「グループでの話し合い」との関連（グループでの話し合い活動のルーブリック表の活用） ・拡大印刷にマジックで書き込む。 ・改善点は、具体的にどのようにしたらよいかまで考えることを確認する。 ・ネームプレート
25 分	3．グループで考えた意見や具体策を発表する。 ・私たちのグループは・・・・	
35 分	4．他のグループの意見や具体策をもとに、自分たちの記事の改善点を見つけ、自分ができることを決める。 ・〇ページはどんな言葉でまとめるとよいかな。〇〇にしよう。 ・ここの部分も〇チームの発表と同じことが言えるね。 ・ここの字も目立たせた方がわかりやすいね。 ・そこは、私がやるよ。	☆より良いパンフレットをつくるために、話し合いを通して、自分ができることを具体的に考えることができる。 （思考力・判断力・表現力）
40 分	5．本時の学習を振り返る。	

（３）評価規準

十分満足とされる児童の姿	おおむね満足とされる姿	支援を要する児童への支援
・友達と対話しながら進んで改善点を見つけることができる。 ・具体的な改善策を考え、理由と合わせて友達に伝えることができる。	・友達と対話しながら改善点を見つけることができる。 ・改善策について考え、理由と合わせて友達に伝えることができる。	・進行役を通して、発言を促す。 ・前時までの活動から、改善策に関わるつぶやきや、困った場面を想起させる言葉がけをする。 ・ルーブリック表を提示する。

（４）研究の視点

○　グループでの話し合いをする場の工夫は、良いパンフレットを作るための改善点を見つけたり自分ができることを具体的に決めたりするために有効であったか。

○　児童は、主体的・対話的で深い学びであったか。

（５）求める児童の姿

主体的な姿	対話的な姿	深い学びの姿
・自分の考えを進んで伝えながら話し合いに参加している。 ・意見や改善点を進んで見つけている。 ・理由も含めて自分の考えを伝えている。 ・進んで資料を活用しながら考えている。	・話し合いの中で、より具体的な考えを導き出すための言葉がけをしている。 ・友達の考えに共感したり、自分の考えと比較したりしながら発言している。	・国語科「グループで話し合おう」で学習したことを生かして話し合っている。 ・自分だけでなく友達の特性も生かして適材適所を選びながら、できることを考えている。